

メッセージアウトライン
メモリアルデー特別集会
(2016年5月27日ー30日)

主題：召会を建造するためのキリストの増し加わり

2016年メモリアルデー特別集会のための標語

使徒行伝は終わりのない書です。なぜなら、この書はキリストの増し加わりのために、依然として継続しているからです。聖霊がキリストの信者たちを通してキリストを宣べ伝え、彼を増し加え、増殖し、繁殖させ、開展する働きは、まだ完成しておらず、長い期間にわたって継続する必要があります。

召会の増し加わりと開展は、キリストの増し加わりと開展です。彼は死を経過して、復活の中へと入り、彼の神聖な命を、彼の中へと信じる者たちの中へと分け与え、彼らが彼の複製となることができるようにしました。

召会におけるあらゆることは、召会の性質の中にあり、命を内容とし、命を分け与えることの中になければなりません。ぶどうの木の枝は、キリストの命の樹液としての命を与え、霊の十分な供給を受けるとき、内なる命の供給のあふれ流れとして実を結びます。

神の願いは、キリストが召会の中で増し加わり成長して、キリストが召会の内容また要素となり、召会が「一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達する」ことです。

使徒行伝の継続におけるキリストの増し加わり

聖書：使徒 28:31. ヨハネ 5:17. 使徒 1:13-14. 6:7. 11:23-24. 19:20. 26:18

I. 使徒行伝は終わりのない書です。なぜなら、この書はキリストの増し加わりのために、依然として継続しているからです——使徒 28:31：

- A. 主は言われました、「わたしの父は今に至るまで働いておられる。だから、わたしも働いているのである」（ヨハネ 5:17）。これが見せているのは、サタンの反逆と人の墮落以来、神は今に至るまで働いており、主も働いているということです。
- B. 使徒行伝は神の働きの記録です。使徒第 28 章以後、多くの器がなおも彼の働きを遂行しています。神の働きは継続していて、止まったことはありません。
- C. 神の働きは前進して、王国に至り、さらには新しい天と新しい地に至ります。神は常に前進しています。彼は決して止まりません。わたしたちはこれを知り、これを信じるなら、主を賛美するでしょう。彼の奴隷たちは新エルサレムとなり、彼に祭司として仕えるでしょう——啓 22:3. 参照、使徒 13:36 前半。
- D. 聖霊がキリストの信者たちを通してキリストを宣べ伝え、彼を増殖し、繁殖させ、開展する働きは、まだ完成しておらず、長い期間にわたって継続する必要がありますがありました。
- E. そのようにキリストを増し加え、増殖し、繁殖させ、開展する福音の働きは、神の新約エコノミーにしたがっており、神の多くの子たちを生み出して（ローマ 8:29）、彼らがキリストの肢体となって彼のからだを構成し（12:5）、神の永遠のご計画を完成し、彼の永遠のみこころを成就するためです。これは使徒行伝に続く二十一の書簡と啓示録に詳しく啓示されています。
- F. 神は団体の、輝く器、証しの器を求めているので、神の子供たちはキリストのからだは何であるかを見て、からだの生活をするを学ぶ程度にまでもたらされなければなりません。そうでないと、彼らは神の御手の中で役に立たなくなり、神の目標を成就することができません——ローマ 12:1-3. I コリント 12:12. 啓 1:10-12。
- G. 勝利者の証しでさえ、召会全体のために維持されます。彼らは働きを行ない、召会全体は益を受けます——12:5-9. 2:7, 11, 17, 26-28. 3:3, 5, 12, 20-21。
- H. 勝利者は彼ら自身のためではありません。彼らは召会の地位に立ち、そこにいて召会全体を完全へともたらしめます。勝利者の勝利でさえ団体の勝利です——参照、ピリピ 1:19。

II. キリストの増殖のために、神の言葉は依然として成長し、増殖しつつあります——使徒 6:7. 12:24. 19:20：

- A. 使徒第 6 章 7 節の「成長し」は命の成長を指しており、神の言葉が命の事柄であって、人の心の中へとまかれた種として成長し、わたしたちの内側でキリストを増殖し、神を増し加えるためです——マルコ 4:14. コロサイ 2:19。
- B. 使徒第 12 章 24 節の「増し加わった」は、数におけるキリストの増し加わりを指しています。実は、弟子たちの増し加わりは言葉の成長にかかっています。
- C. 新しい信者たちは「主に加えられて」、キリストの各部分、すなわちキリストの肢

体となります—使徒 5:14, 11:24, ローマ 15:16。

- D. わたしたちは、「心に決意して主にとどまるようにと」、新しい信者たちを励ます必要があります。これは絶えず主に対して忠信であり、彼にしっかりつき、彼との緊密な交わりの中で生きることです—使徒 11:23。

Ⅲ. 使徒行伝の継続はキリストの継続であり、キリストのからだの実際としての成就された神・人の団体の生活をもってです。使徒パウロは、すべての信者、キリストのからだの肢体の模範として、キリストの継続として、キリストを生きて彼を大きく表現しました—ピリピ 1:19-21 前半, 使徒 9:4-5, 15, 26:19, I テモテ 1:16 :

- A. パウロはキリストの弟子であり、キリストを見て、キリストに聞き、イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学びました—使徒 9:1-19, 25-27, 22:14-15, エペソ 4:20-21。
- B. パウロはキリストの選びの器であって、彼を内容とし、彼で満たされ、彼の豊満のために彼をあふれ流し出しました—使徒 9:15, II コリント 4:7, エペソ 1:22-23, 3:19。
- C. パウロは祈りの人でした—使徒 9:11, 13:1-3, 14:23, 16:13, 25, 20:36, 21:5, 22:17, 28:8, エペソ 6:18, コロサイ 4:2。
- D. パウロはからだに依り頼み、あらゆることをからだの中で、からだを通して、からだのために行ないました—使徒 9:11, 17-18, 25-27, I コリント 1:1, 12:14-27。
- E. パウロは主の御名を呼び求めることを実行しました—使徒 9:14, 21, 22:16, II テモテ 2:22, ローマ 10:12-13, ピリピ 2:9-11。
- F. パウロはすべてを含むイエスの霊（苦難のための満ちあふれる強さを持つ人の霊）によって生き、それは彼の宣べ伝える務め、すなわち人の命の中にあり、人類の間で遂行される苦難の務めのためであり、キリストのからだを建造しました—ヨハネ 7:37-39, 使徒 9:16, 16:7, 22-34, ピリピ 3:10, コロサイ 1:24, II コリント 6:4, 11:23, ヘブル 6:19-20, 13:13。
- G. パウロはミングリングされた霊（神の霊と人の霊がミングリングされて一となった霊）の中で生きました—使徒 17:16, 19:21, ローマ 8:4, 6, 16, I コリント 6:17。
- H. パウロは、本質上、彼の存在のために喜びの霊で満たされ、エコノミー上、彼の機能のために力の霊で満たされていきました—使徒 13:9, 52, エペソ 5:18。
- I. パウロは自分自身を訓練して、常に正しい純粋な良心を持ちました—使徒 23:1, 24:16, I テモテ 1:19, 3:9。
- J. パウロは常に主の中で喜び、彼に感謝する生活をしました—使徒 16:25, 27:35, ピリピ 4:4, コロサイ 3:16, I テサロニケ 5:16-18。
- K. パウロは神と連合し、神によって支援されて、イエスの御名の中で大胆に福音を語り、イエスの証しを地の果てにまで拡大しました—使徒 9:20, 27, 26:22-29, 28:31, 1:8, I テサロニケ 2:2, 参照、ローマ 15:24, 28。
- L. パウロはイエスの人性の中で聖徒たちをはぐくみ、キリストの神性の中で、神の永遠のエコノミーのすべての真理をもって彼らを養い、彼の生活の中で、「受けるよりは、与えるほうが幸いである」との主イエスの言葉を表示しました—使徒 20:18-38, I テサロニケ 2:1-12。

M. パウロの四回目の務めの行程は（使徒第 27 章—第 28 章）、特別な方法で彼の生活、すなわち彼がキリストを生き、キリストを大きく表現し、キリストの中でいっさいの事柄を行ない、キリストを追い求めて、キリストの中に見いだされるという生活を見せています——ピリピ 1:19-21 前半、3:8-9, 14、4:13：

1. 使徒の長い不幸な監禁の航海の間中、主は使徒を超越性の中に保ち、思い煩いの領域をはるかに超えた生活をする事ができるようにしました。この生活は、完全に威厳があり、最も卓越した神聖な属性を表現する人の最高水準の美德を伴っていました——5-9 節。
2. これは、神性によって豊かにされた人性の中で、再び地上で生きたイエスでした！
これは、すばらしい、卓越した、奥義的な神・人であり、彼は福音書の中で生き、彼の多くの肢体の一人を通して、使徒行伝の中で生き続けました！これが、肉体と成り、十字架につけられ、復活し、神が高く上げたキリストの生ける証しでした！
3. パウロは彼の生活と務めにおいて、真の神を表現しました。この真の神はイエス・キリストにあって、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活の過程を経過し、すべてを含む霊として、パウロの中で、彼を通して生きました——ガラテヤ 1:15-16, 24、2:20、3:14。参照、使徒 28:6。
4. 嵐の海で、主は使徒を、同船の仲間たちを所有する者としただけでなく（27:24）、彼らの命を保証する者また慰める者ともしました（22、25 節）。今や無事に陸上にいて、主はパウロを、迷信的な人々の目に魔術的な魅力のある者としただけでなく（28:1-6）、彼を島の人たちに対していやす者、喜びともしました（7-10 節）。
5. パウロがローマの兄弟たちから受けた温かい出迎えと、ポテオリの人たちの愛の配慮は（13-15 節）、初期の時代にあった諸召会と使徒たちの間の、美しいからだの生活を見せています：
 - a. 外見上、使徒は、束縛の中の囚人として、サタンが強奪した帝国の暗黒の首都の区域に入りました。実際は、キリストの大使として、彼の権威をもって（エペソ 6:20、マタイ 28:18-19）、地上の神の王国で、キリストの召会のからだの生活にあずかっている、もう一つの部分へと来たのです。
 - b. 彼はサタンの帝国（旧創造におけるサタンの大混乱）の中で宗教の迫害を受けているとき、神の王国（新創造のための神聖なエコノミー）の中で召会生活を享受していました。これはパウロにとって慰めであり励ましでした。

N. 召会の究極の結果は、未来の永遠における新エルサレムであり、神の満ち満ちた永遠の表現です。これが今日、わたしたちの福音の宣べ伝えのすべての実際と目標となるべきであり、それはわたしたちが使徒パウロの模範に従うようにです——「大胆に、妨げられることなく、神の王国を宣べ伝え、主イエス・キリストについての事柄を教え続けた」——使徒 28:31。

IV. 使徒第 26 章 18 節が啓示しているのは、わたしたちが今日、キリストのからだの増し加わりと建造のために行なわなければならない働きです。この節は、わたしたちの神聖な使命のすべてを含む内容を明らかにしています——「彼らの目を開き、彼らを暗やみから光へ、サタンの権威から神に立ち返らせるのである。それは、わたしにあ

る信仰によって、彼らが罪の赦しと、聖別された人たちの間での嗣業を受けるためである」:

- A. これは神のヨベル、すなわち主の受け入れる年の成就を実現するためであり、神の新約エコノミーにしたがって、ルカ第4章18節から21節で主イエスによって告知されています。
- B. わたしたちは使徒第26章18節におけるわたしたちの神聖な使命のために祈り、主がそれらをわたしたちの経験と実際としてくださり、わたしたちが他の人をこの経験と実際の中へともたらすことができるようにと求める必要があります——エペソ3:8-9。
- V. わたしたちは使徒行伝の継続の中にいようとするなら、上の部屋の献身を持つことによって、主の働きの唯一の水流の中で、神聖な歴史の中に生きる必要があります——使徒1:13-14. 詩歌, 650番:
- A. わたしたちがここにいるのは運動のためではなく、主の回復のためです。回復はただ、上の部屋の特別で特殊な献身によってのみ完成されることができます。
- B. 主の行動は上の部屋の人たちをもって、目が開かれ、心が触れられた人たちをもつてでした——ルカ12:49-50. 使徒2:3-4. 17:6後半. ローマ12:11。
- C. 世界を転換させ時代を変えるのは少数の人です。わたしたちは上の部屋にいようとするなら、特別な方法で祈って言う必要があります、「主よ、わたしはあなたの証しの回復のために、進んで上の部屋にいます」。